

スーパーマーケット景気動向調査

2020年2月調査結果（1月実績）
（2020年2月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断、見通し判断は共に小幅に悪化

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から-2.2の42.5、見通し判断は前月から-1.9の39.5となり、共に小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共にややマイナス幅を拡大した。青果相場安により生鮮仕入原価DIが-4.2とマイナスに落ち込み、客単価DIが-3.5と低迷したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、前年より高い気温の影響により、冬物商材が不振となっており大きな影響を受けた。なかでも青果相場安の影響も加わった青果DIは-13.9と二桁のマイナスとなった。非食品カテゴリーは、新型コロナウイルス対策として衛生用品に品薄が発生するなど、マイナス幅を縮小している。惣菜DIは天候の恩恵も受け唯一プラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれのDIも悪化をみせており、なかでも2か月連続で改善していた現状判断の悪化幅が大きくなった。また見通し判断では弱含み傾向が継続しており、中核店舗景気判断DIでは30台まで悪化している。（長期傾向についてはp11参照）

消費税率引き上げの影響もあり、節約志向の高まりを指摘するコメントが多くみられた。新型コロナウイルスの影響も拡大しており、消費者マインドの冷え込みは長期化する可能性が高い。テレワークの拡大や外出の自粛など、家で過ごす時間が増加することも予想される。今後の家庭内消費や内食需要の高まりへの対応に向け、豊かな食卓の演出をサポートするような取り組みが求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：42.5 (-2.2) 前月：44.7	消費者購買意欲DI 当月：41.9 (-2.6) 前月：44.5	周辺地域 競合状況DI 当月：40.0 (-0.6) 前月：40.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：43.7 (-0.6) 前月：44.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：39.5 (-1.9) 前月：41.4	消費者購買意欲DI 当月：40.5 (-0.6) 前月：41.1	周辺地域 競合状況DI 当月：39.7 (-0.3) 前月：40.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：42.6 (-0.7) 前月：43.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-8.8 (-2.4) 前月：-6.4	客単価DI 当月：-3.5 (-0.8) 前月：-2.7	来客数DI 当月：-9.8 (-2.4) 前月：-7.4	
収益DI 当月：-6.0 (-2.6) 前月：-3.4	販売価格DI 当月：-0.2 (-0.9) 前月：0.7	生鮮品仕入原価DI 当月：-4.2 (-7.3) 前月：3.1	食品仕入原価DI 当月：0.5 (-1.7) 前月：2.2

カテゴリー動向

青果DI 当月：-13.9 (-14.2) 前月：0.3	水産DI 当月：-3.1 (-0.4) 前月：-2.7	畜産DI 当月：-5.9 (-2.6) 前月：-3.3	
惣菜DI 当月：1.8 (-0.8) 前月：2.6	日配DI 当月：-7.1 (-3.8) 前月：-3.3	一般食品DI 当月：-10.4 (+0.3) 前月：-10.7	非食品DI 当月：-6.4 (+6.2) 前月：-12.6

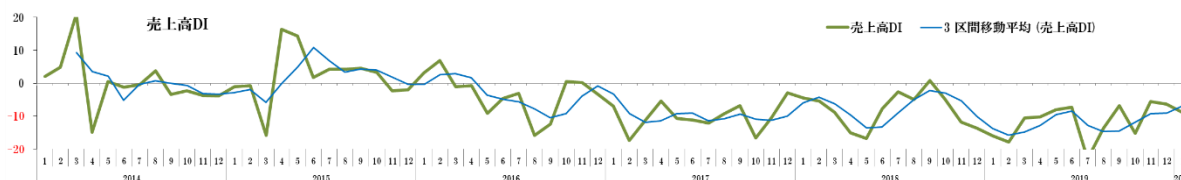
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

小幅ながらマイナス幅が拡大し、上昇基調一服

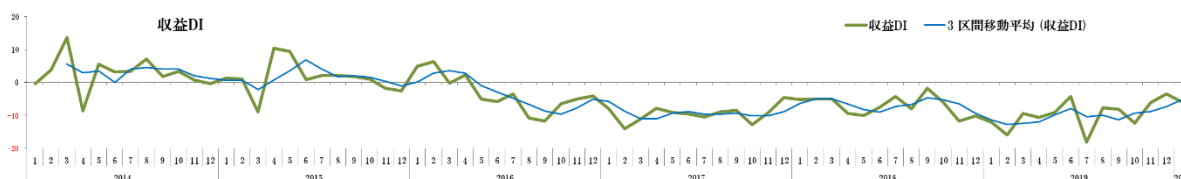
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	9.1	34.2	33.2	20.3	3.2	-6.4
売上高 (当月)	13.2	34.6	28.9	20.8	2.5	-8.8



2. 収益DI

マイナス幅が拡大し、上昇基調一服

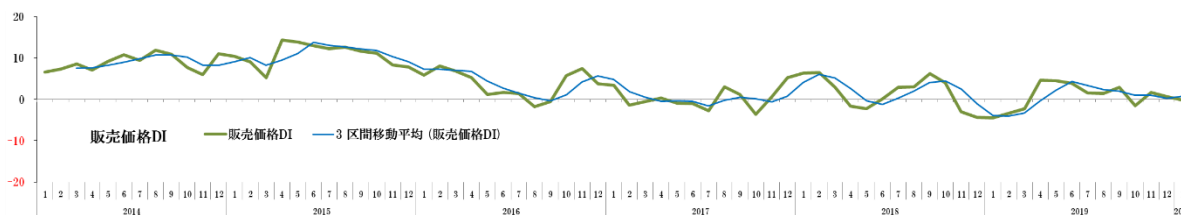
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.6	29.5	38.3	22.4	3.3	-3.4
収益 (当月)	8.4	32.9	34.8	21.9	1.9	-6.0



3. 販売価格DI

緩やかな下降トレンドが続く

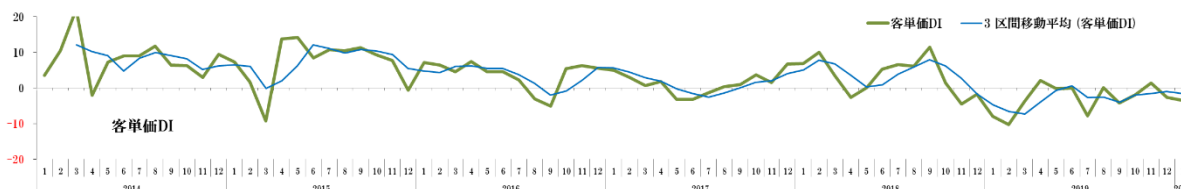
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.6	13.4	66.3	18.2	0.5	0.7
販売価格 (当月)	0.6	15.4	68.6	14.7	0.6	-0.2



4. 客単価DI

2か月連続で小幅なマイナス水準で推移

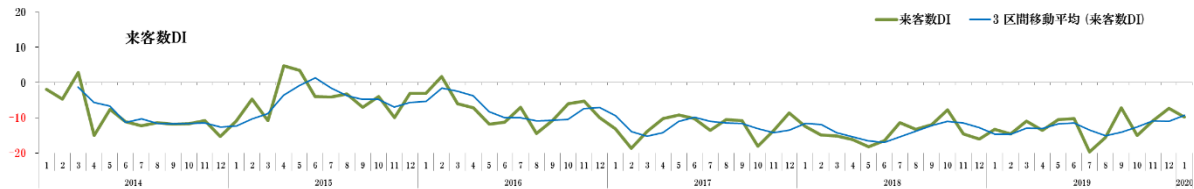
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.7	29.4	43.9	24.1	0.0	-2.7
客単価 (当月)	2.6	32.1	42.3	23.1	0.0	-3.5



5. 来客数 DI

マイナス水準での低迷が続く

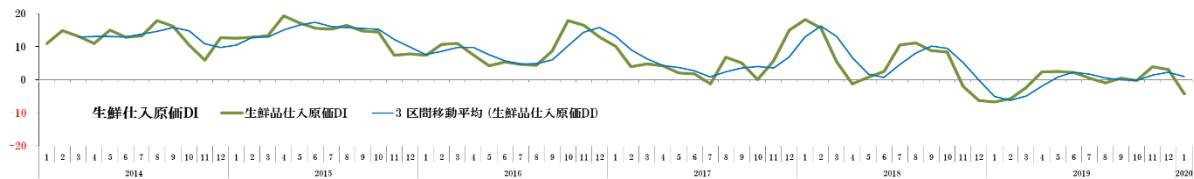
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.1	37.4	29.9	20.9	2.7	-7.4
来客数 (当月)	12.2	35.3	34.6	15.4	2.6	-9.8



6. 生鮮仕入原価 DI

大きく下落しマイナス水準へ

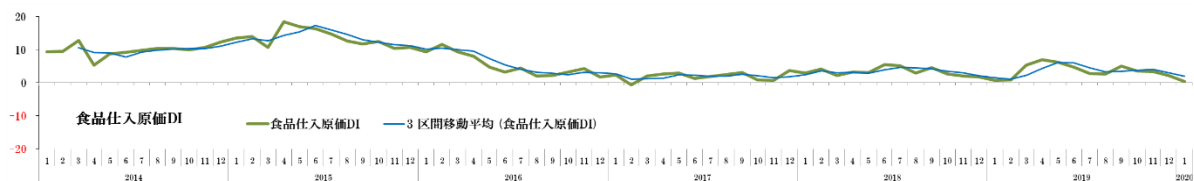
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	13.9	56.7	28.3	0.0	3.1
生鮮仕入原価 (当月)	3.2	26.0	55.2	15.6	0.0	-4.2



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.8	9.9	63.5	23.2	0.6	2.2
食品仕入原価 (当月)	3.8	10.3	66.0	19.9	0.0	0.5

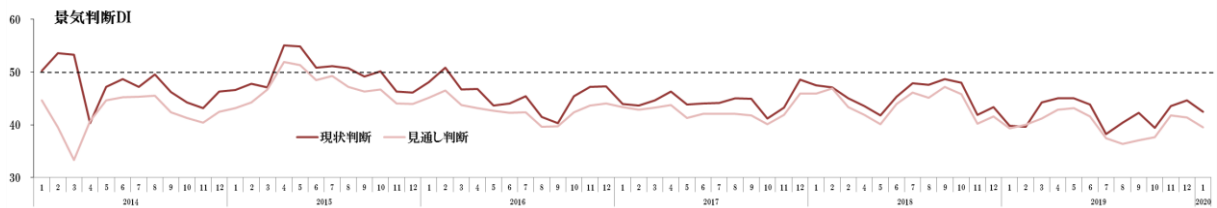


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状、見通し判断共に悪化 見通し判断は再び30台に

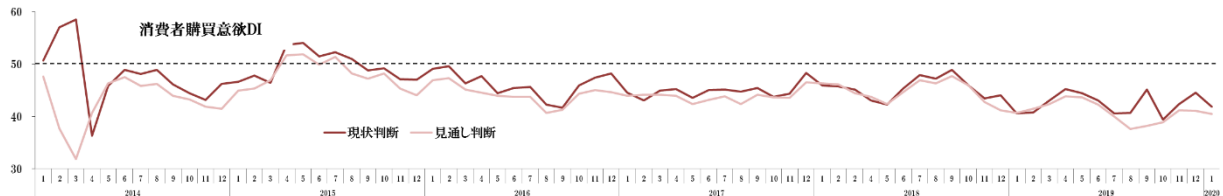
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	3.2	26.7	58.8	10.7	0.5	44.7
【現状】景況判断 (当月)	3.8	30.0	58.8	7.5	0.0	42.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	2.7	33.7	58.8	4.8	0.0	41.4
【見通し】景況判断 (当月)	4.4	36.9	55.0	3.8	0.0	39.5



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に悪化 現状判断の悪化幅が大きい

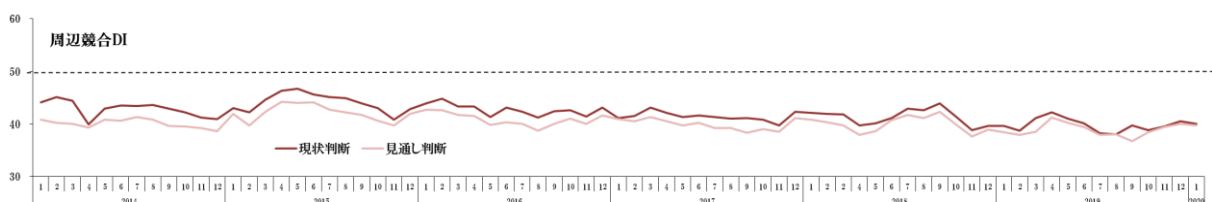
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.6	28.2	61.2	8.5	0.5	44.5
【現状】購買意欲 (当月)	1.9	33.8	59.4	5.0	0.0	41.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.1	34.6	60.1	3.2	0.0	41.1
【見通し】購買意欲 (当月)	1.9	37.5	57.5	3.1	0.0	40.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に小幅な悪化

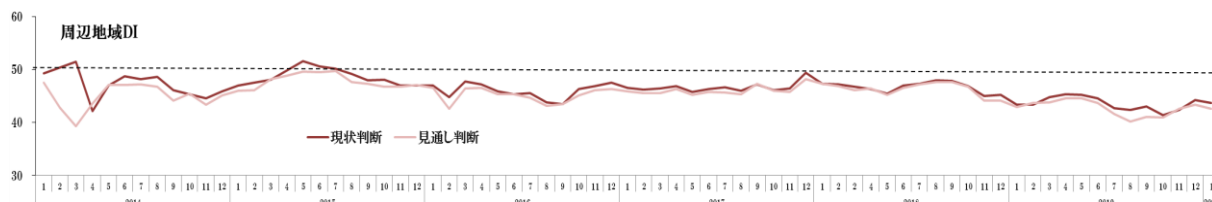
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.4	26.6	65.4	1.6	0.0	40.6
【現状】競合状況 (当月)	7.5	27.5	62.5	2.5	0.0	40.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.4	26.6	64.4	1.6	0.0	40.0
【見通し】競合状況 (当月)	8.8	26.3	62.5	2.5	0.0	39.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通し判断共に小幅な悪化

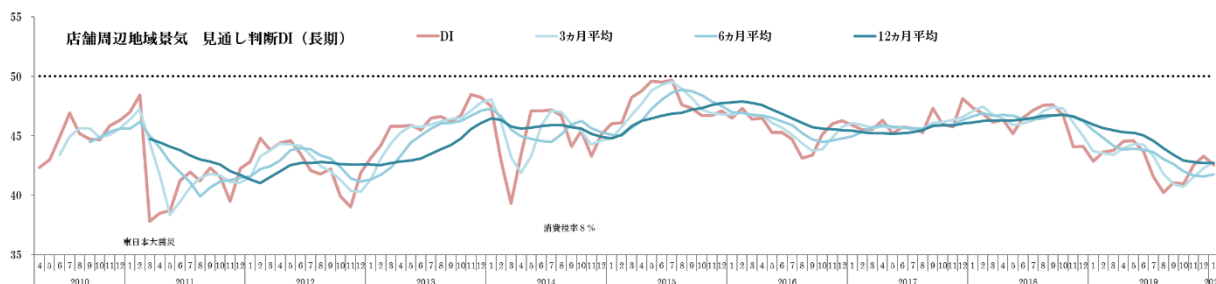
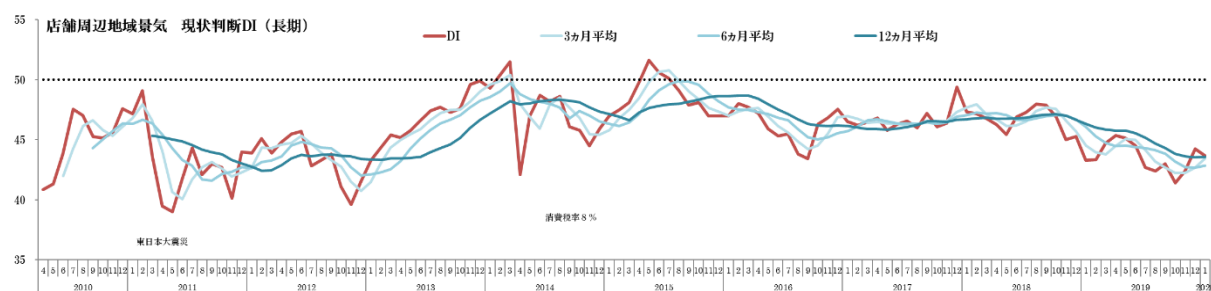
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	22.5	76.5	0.5	0.0	44.3
【現状】地域景気 (当月)	1.3	24.1	73.4	1.3	0.0	43.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	26.9	71.5	1.1	0.0	43.3
【見通し】地域景気 (当月)	2.5	25.9	70.3	1.3	0.0	42.6



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

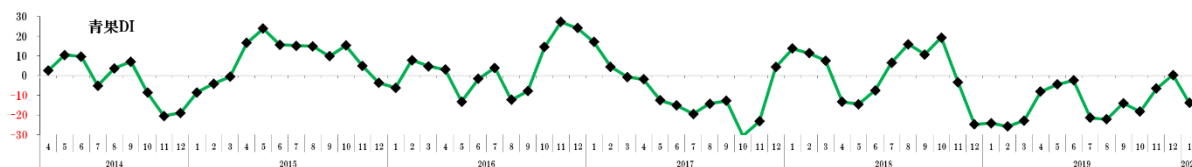
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げ、19年10月には現状判断DIは40.9まで低下した。その後やや持ち直したものの、2020年1月にやや一服した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-13.9（不調）

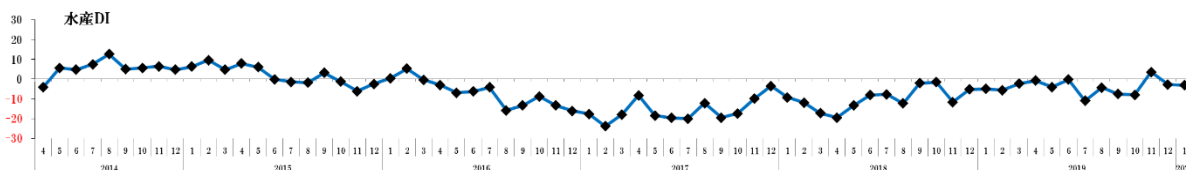
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	6.8	24.9	32.8	31.6	4.0	0.3
青果（当月）	11.9	45.0	31.1	10.6	1.3	-13.9



全般的に青果相場が前年より1割程度安く推移しており、販売点数増加がみられたものの、単価の落ち込みをカバーするには至らなかった。特に大幅な相場安となったジャガイモや玉ねぎなどが不振となった。暖冬となった前年と比べてもさらに気温が高く、菌類を中心として鍋物関連野菜の動きが悪かった。サラダ関連の洋菜類は動きがよかった。国産果物類で相場高や品質によりイチゴやみかんが不調となり大きく売上を落とした。一方輸入果物のバナナやキウイフルーツなどは好調となった。

2. 水産DI：-3.1（やや不調）

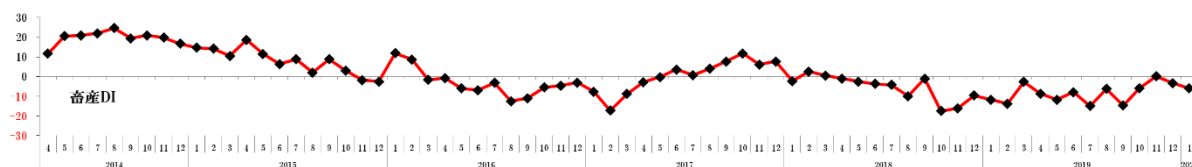
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.5	28.2	36.8	23.0	4.6	-2.7
水産（当月）	7.9	27.6	37.5	23.0	3.9	-3.1



前年より高い気温となった地域では鍋物用食材（牡蠣、タラなど）の不振が続いた。刺身類は年始商戦では好調に推移したものの、正月以降は伸び悩んだ店舗が多い。ブリや鮭などは好不調が分かれた。タコや海藻類が好調とのコメントが多かった。サラダ用や簡便商品の取扱い強化の動きもみられた。

3. 畜産DI：-5.9（やや不調）

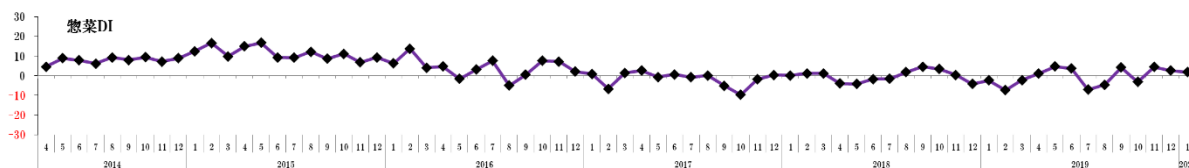
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	8.0	25.9	40.2	23.0	2.9	-3.3
畜産（当月）	8.6	30.9	38.8	19.1	2.6	-5.9



前年より気温が高い地域が多く、鍋物用や煮込み用の豚肉や鶏肉を中心に動きが悪かった。牛肉は焼肉用などが好調だが、平日は輸入牛、週末は和牛などブランド牛の動きがよかった。国産豚は不振となったが、輸入豚の価格訴求により販売数量を伸ばした店舗もみられた。鶏肉も気候条件により伸び悩んだが、焼き物用の銘柄鶏を訴求して成果を上げた店舗もみられた。ハムやソーセージなどの加工肉は好不調がわかれた。

4. 惣菜DI：1.8（やや好調）

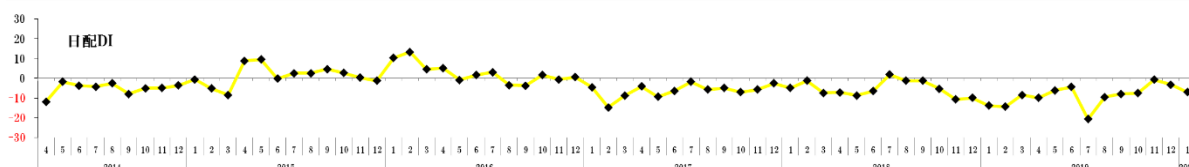
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.2	21.4	37.0	30.6	5.8	2.6
惣菜（当月）	5.3	23.7	34.9	30.9	5.3	1.8



雨や雪が少ないなど天候に恵まれたため、揚げ物や米飯類が好調に推移した。出来立ての提供や旬の食材を使った季節感のある商品の動きがよい一方で、商品のマンネリ化で伸び悩みを指摘するコメントもみられた。青果カテゴリー同様にサラダや和え物が好調となった。ロス率管理の強化により、チャンスロスの発生を指摘するコメントがみられた。

5. 日配DI：-7.1（やや不調）

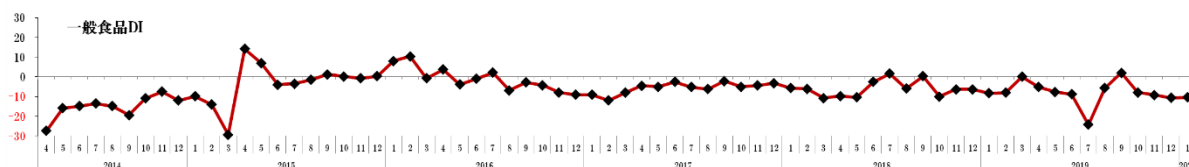
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.9	27.6	40.2	22.4	2.9	-3.3
日配（当月）	9.2	31.6	39.5	17.8	2.0	-7.1



前年より高い気温により、鍋・おでん商材関連の和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。前年健康報道により特需のあった納豆、甘酒、梅干しには反動減もみられ、和日配カテゴリーが特に不振となった。洋日配では、機能性ヨーグルトは前年並みだが、飲料やチーズ、入荷が安定したバター類などが好調となった。パン類は好調に推移した店舗が多い。TV報道のあった豆乳類には特需もみられた。

6. 一般食品：-10.4（不調）

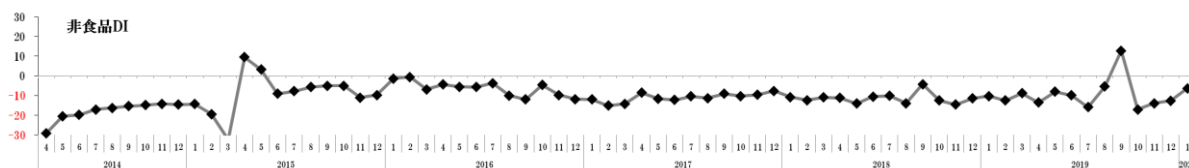
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.1	41.1	34.9	13.1	1.7	-10.7
一般食品（当月）	11.0	34.4	41.6	11.0	1.9	-10.4



高い気温で推移した地域では、鍋用調味料やシチューなどホット商材、コーヒー類は総じて不振となった。一方で飲料類は比較的堅調に推移した。野菜相場安の影響か、ドレッシングやマヨネーズが好調となった店舗もみられた。前年報道によりサバ缶をはじめとする水産缶詰類や、えごま・エマニ油に反動減がみられた。米類はやや好調となっている店舗が多い。酒類は消費税率引き上げ後の反動減が続いている。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争を厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品 DI：-6.4（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	16.4	32.2	38.0	12.3	1.2	-12.6
非食品（当月）	9.4	35.6	30.9	19.5	4.7	-6.4



1 月下旬からインフルエンザ、コロナウイルス対策として、マスクや石鹸、除菌シートなど衛生用品が売り切れとなるなど品薄状態が続いている。カイロや入浴剤などの季節商材は、高い気温により不振となった。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調 ： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2020 年 2 月調査（1 月実績）キーワード TOP3

1. 冬物商材不振（前年より高い気温）
2. 青果相場安
3. 節約志向

（参考）2019 年 2 月調査（1 月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場安（前年高騰）
2. 冬物商材不振（前年より高い気温）
3. 降雪予報による買いだめ需要からの反動

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1 月実績速報版 187 社
 12 月実績確報版 160 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp